

気とは何か 気の定義エトセトラ

1. 南郷継正「武道修行の道」三一書房

気とは認識、特に意識の技化したものであり、これは目的的に単純に訓練し得るものであって、さも、自分たちの流派にしか存在しないものであるかの宣伝に見る程の神秘性は何らなくそう大仰とらえる程のものではない。

2. 丸山敏秋「気 論語からニューサイエンスまで」東京美術選書

中国医学でいう気とは、外界の変化やストレスに対して、内界のホメオスターシスを保つ生体エネルギーにほかならない。

3. 高藤聡一郎「驚異の超人氣功法」学習研究社

どうやら気とは、赤外線とか磁気とかいった単一のエネルギー水準にあるものをそう呼んでいるのではなく、もっと幅広いエネルギー領域をさしているらしいのである。

4. 西野皓三「”気”の発見」祥伝社

”気”とは、生きとし生けるものすべてにある生命エネルギーであり、”気”が身体から湧出するようになれば、細胞ひとつひとつから、眠っていた潜在能力が引き出され、常識では考えられないワンダーな世界が開け、不思議な現象が起こってきます。

5. 佐々木茂美「超能力エネルギーは「気」だった」ゴマブックス

「気」は、人間の意識によってコントロールされるように精神的な側面もあるかと思えば、水の電気伝導率実験で測定ができるように物質としての一面ももつ。「気」は、”心を持った物質”と定義できるのだが、その中には、より心に近いレベルの「気」もあれば、より物質に近いレベルの「気」もある。

6. 高林雪山「日本気功法」徳間書店

中国流の考えでは、「気」はある種の物理的な実在である。物理的な実在でもあり、心理的な作用も惹き起こす、宇宙に遍満するエネルギーの一種だと考えられた。

7. 品川嘉也「気功の科学」光文社

「気」を近代科学の用語で完全に説明することができるかときかれたら、「そんなことは不可能だろう」と答えるほかはない。

8. 福岡明「医者が書いた《気》の本」プレジデント社

〈気〉は意識なのだ。全身の緊張感を取り除き、心身統一ができた時の意識こそ〈気〉なのである。